

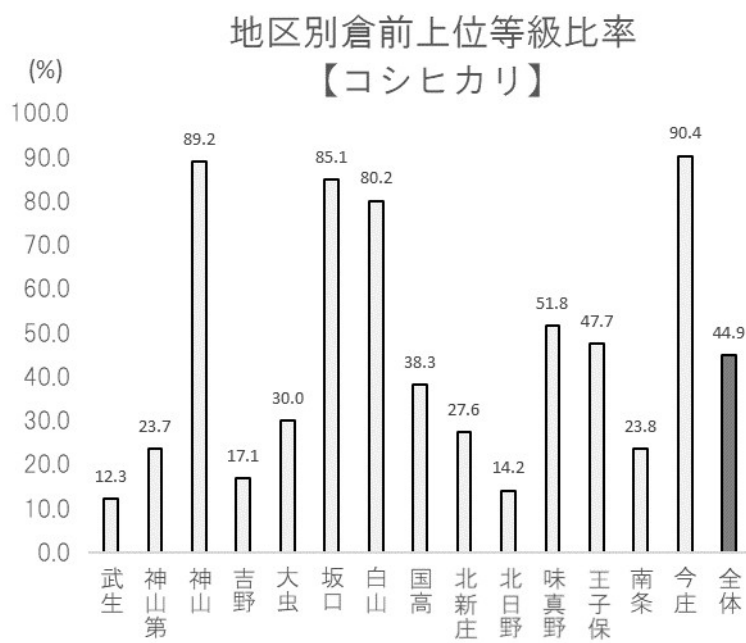
2020年産米 コシヒカリ・日本晴作柄概況

1. コシヒカリ

コシヒカリの収穫量については8月中旬以降の天気が高温多照で推移し、登熟が良好で平年並みでしたが、品質は登熟期の高温障害により乳白米の発生が多く、倉前検査上位等級比率が44.9%と低くなりました。

コシヒカリ 生育圃場脱穀データ

年度	粗玄米重	精玄米重	網下量	網下率
	(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)	(%)
2019	532	474	58	10.9%
2020	541	491	50	9.2%
前年対比	+9	+17	-8	-1.7%



乳白



背白



基部未熟



原因

- ・登熟期の高温（特に夜温）
- ・低日射
- ・籾数過剰
- ・登熟期の肥料不足

対策

- ・こまめな水管理で根の活力維持と水温低下
- ・ケイ酸質資材により葉の蒸散作用促進
- ・適期田植で高温登熟回避
- ・疎植細植・中干で籾数抑制
- ・深耕で根域確保
- ・気象に対応した追肥

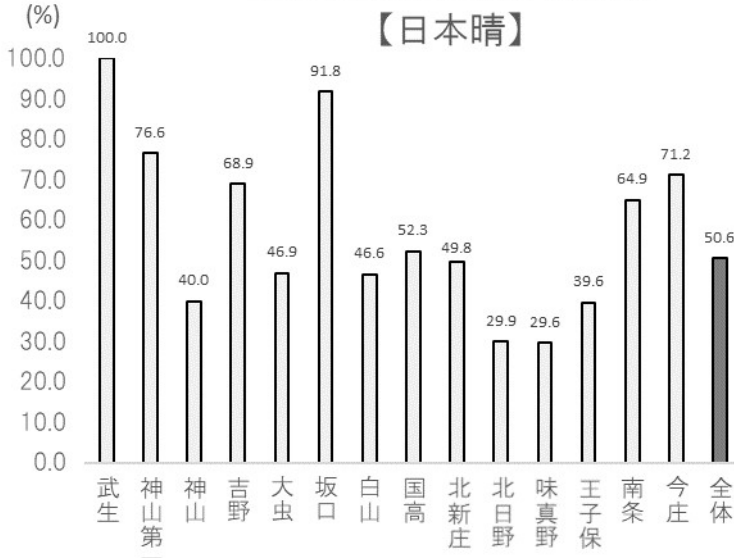
2. 日本晴

日本晴の収穫量はコシヒカリ同様の理由から増加しましたが、品質は高温障害による乳白米や栄養凋落による基部未熟が多発しました。また昨年同様積雪日数が少なかったため越冬したカメムシが多く、斑点米による格落ちが拡大しました。

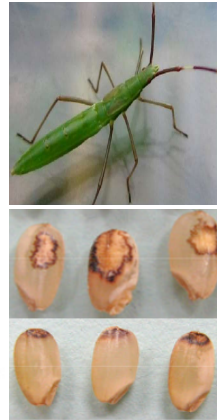
日本晴 生育圃場脱穀データ

年度	粗玄米重	精玄米重	網下量	網下率
	(kg/10a)	(kg/10a)	(kg/10a)	(%)
2019	553	524	29	5.2%
2020	607	551	56	9.2%
前年対比	+54	+27	+27	+4.0%

地区別倉前上位等級比率 【日本晴】



クモヘリカメムシ
15~17mm



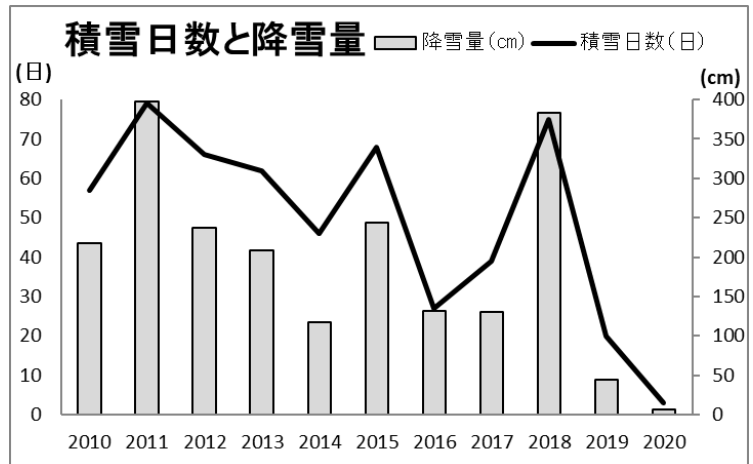
原因

- ・暖冬により越冬成虫増加
- ・圃場内のヒエ、ホタルイ
- ・水田周辺雑草（特にエノコログサ）
- ・発生時期の遅いクモヘリカメムシが増加

対策

- ・畦畔等水田周辺の除草
- ・水田内のヒエ等の除去
- ・日本晴の仕上防除（薬剤には弱いので、防除効果は高い）

クモヘリカメムシは樹上で成虫越冬し、積雪日数と生息数が反比例します。またクモヘリカメムシは生存日数が1ヶ月と他のカメムシに比べ長く、日本晴の登熟初期と2世代成虫の生息期間が重なりやすく、斑点米の被害が拡大しますので次年度以降も近年のように極端に積雪日数が少ない年は注意が必要です。



2020年度分 確定申告（農業所得）相談会について

毎年開催している確定申告相談会は昨年と同様に下記の方の受付を行いませんのでご注意ください。

- (1) 農業所得のない方
- (2) Web簿記会員以外の方※JAで会員登録の確認をお願いします。
※会員の方には、年間3,000円(税抜)のシステム利用料を納付いただいております。
- (3) Web簿記会員でe-Tax利用者識別番号を取得していない方
※Web簿記会員の方々へは、別途e-Tax利用者識別番号の取得方法等お知らせ致します。



上記に該当する方でJAでの確定申告相談をご希望の方は12月末までに各支店営農指導員までお申し出ください。